直方焼きスパ広め隊が
筑豊高校生徒に焼きスパの作り方を伝授

2月26日、直方焼きスパ広め隊が筑豊高校の生徒に「直方焼きスパ」の作り方を伝授しました。作り方を教わったのは生活デザイン科1年生の26人です。昨年行われた筑豊高校の文化祭で焼きスパを提供したことがきっかけとなり、焼きスパ広め隊による今回の出張授業が実現しました。

まずは広め隊5人が、生徒の前で見本となる焼きスパを調理しました。豚肉、タマネギ、キャベツを順に炒め、麺とソースを加えてしっかりと焼いていきます。生徒たちはその様子を真剣に見つめながら、メモを取っていました。

その後一班3～4人に分かれ、調理開始。コツは「水分を飛ばして、ソースがよく絡むようにこってりと仕上げる」「最後にバターをなじませて焦げ付かないようにする」こと。広め隊の手ほどきを受けながら、ようやく完成した焼きスパを皆で実食。生徒たちはおいしそうに焼きスパを頬張っていました。

福井咲羅（さくら）さんは「おいしくできました。簡単だったので家でも作ってみようと思います」と笑顔で話してくれました。広め隊の近藤チサト代表（79）は「今回のように若い人たちに作ってもらえて嬉しい。これからも、若い人たちにもっと焼きスパを広めていきたい」と決意を新たにしていました。

シンプルかつ奥が深い焼きスパの世界

国指定史跡
「筑豊炭田遺跡群」への理解を深めるリレー講座

昨年10月に「筑豊炭田遺跡群」が国指定史跡となったことを記念して、飯塚市、田川市、直方市で開催された筑豊炭田遺跡群リレー講座が、2月16日の直方会場（中央公民館）で終了しました。

最初に講義を行った市の田村悟学芸員は、当時の直方は筑豊炭田の重要な拠点であったため、筑豊石炭鉱業組合が直方に会議所を作ったことや、同組合が出炭制限などを実施して主要なエネルギー源であった石炭の価格を調整していたことなどを紹介しました。また、炭鉱の暗いイメージを払拭するためか、筑豊地方の炭鉱は閉山が早く、多くの炭鉱遺跡が破壊されてきたという経緯があります。今回の国史跡指定を契機として、炭鉱と歩んできた筑豊の歴史に誇りを持っていくように呼びかけました。

次に、筑豊近代遺産研究会の榊正澄さんは、炭鉱王堀三太郎の邸宅であった直方歳時館や、炭鉱事故で命を落とした労働者の慰霊碑といった石炭産業の足跡を紹介しました。

最後に「筑豊炭田遺跡群と筑豊石炭鉱業組合を語る」と題して、田村学芸員、筑豊近代遺産研究会の榊さんと玉井昭次さん、石炭記念館八尋孝司館長の4人による座談会が行われました。玉井さんは筑豊鉱山学校の後進である筑豊工業学校の出身で、筑豊炭田遺跡群が果たした役割を力説しました。また、石炭の運搬に関する参加者からの質問に八尋館長や榊さんが答えるなど、会場内は熱気に包まれました。

多くの受講者で大盛況

パネリストの解説にも熱が入ります

今年は節目の10回目
ゆた～っと直方節句まつり

春の恒例イベント「ゆた～っと直方節句まつり」が、3月2日から5日まで市内商店街を中心に開催されました。にぎわいのあるまちを目指して、市民が中心となった実行委員会が主催しています。もち吉ビルや直方市石炭記念館、直方歳時館等にはひな人形を展示。もち吉ビルには、直方藩主居館や鷹取城等の城郭模型、市内10幼稚園・保育園児が作成した陶器や紙製のひな飾りも展示され、多くの人の目を楽しませました。

直方歳時館では、畳の部屋に大きなひな人形が飾られ、まさしく「ゆた～っと」鑑賞することができます。嘉麻市から来た女性は「歳時館の中は、とても明るくてじっくり人形を楽しめますね。木目込み人形やさげもんなどもあって、温かみを感じます」と、美しいひな飾りに目を奪われていました。

期間中はスタンプラリーや人力車乗車体験も楽しめました

新たな可能性を求めて
ふくのこ炒飯試食会

市では、米農家の所得向上、地域活性化の起爆剤として、今年度から「ふくのこ」の生産と商品開発の取り組みを始めています。直方市農産物ブランド化推進協議会は、3月5日から4日間にわたり幕張メッセ（千葉県千葉市）で開催された国際食品・飲料展への出展に向けて、福岡市中央区にある中国料理店「福新楼（ふくしんろう）」の協力のもと、ふくのこを使った冷凍炒飯を開発しました。

福新楼の張光陽（ちょうこうよう）代表取締役は「ふくのこはアミロースの含有率が高く、パラパラした食感は炒飯に適している。家庭でもふくのこを使えばパラパラの炒飯が作れます」と話しました。試食をした市長は「パラパラしていて一粒一粒に弾力があり、おいしい。こうしてふくのこの可能性が広がることは生産者にとっても励みになりますね」と、ふくのこを活用した商品開発に期待を寄せました。

今後の展開として、米粉の活用と併せて主食用としての需要開拓を行い、将来的には一般販売を目指します。

冷凍保存ができる炒飯は食卓の強い味方

めざせオリンピック
全国水泳大会出場を報告

3月27日から30日に、都内開催の全国ＪＯＣジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会への出場が決定した小野颯太郎（そうたろう）さん（直方第二中学校2年生）が、3月5日、出場報告に訪れました。

小野さんは直方スイミングスクール野上に4歳から通っていて、毎日放課後2時間ほど練習に励んでいます。一時期はタイムが伸び悩んだものの、筋力トレーニングや体幹トレーニングを行いながら体への負荷を高める練習も取り入れ、タイムが少しずつ伸びてきたといいます。2月の記録会では24秒63を記録し、標準タイムの24秒70を上回って出場権を得ました。同じスクールには目標となる先輩もいて、出場を前に、練習にもより力が入ります。

小野さんは「自分より速い人はたくさんいるけど、少しずつ自信が出てきました。この大会では決勝進出を目指します」と抱負を語りました。

やるからには将来五輪に出たいと力強く表明